

九州栄養福祉大学同窓会

# 四魂会

発行者 九州栄養福祉大学同窓会 四魂会  
 編集 四魂会広報委員会  
 発行所 福岡県北九州市小倉北区下津5-1-1  
 印刷 株式会社小田謄印社

SHIKONKAI SINCE2015

九州栄養福祉大学同窓会「四魂会」会報誌

令和2年3月発行 第五号

## 第四回 九州栄養福祉大学同窓会総会 及び懇親会が行われました。



令和元年八月二十五日(日)に、第四回九州栄養福祉大学同窓会及び懇親会が九州栄養福祉大学北区キャンパス内で開催されました。総会では、上野会長と室井学長のご挨拶があり、その後各担当より事業報告、事業計画案、決算報告、予算案の報告があり、予算案においては承認をいただきました。今回の同窓会ではご退職された先生方にもお声掛けさせていただきました。多くの先生方にも出席していただきました。当時の話に花を咲かせているところを見て、有意義な買いになったのではと感じております。

今回の総会及び懇親会は、北区キャンパスにて新設された講堂や食堂「カフェテリア」での初開催となっております。参加された食物栄養科の卒業生の皆様は、生まれ変わったキャンパスに驚かれていました。



### 会長挨拶

本日の総会は発足式を含め五年目の開催になります。これも役員及び教職員の皆様のご支援、ご助力をいただいたおかげになります。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。この度、四年間任期を全うされた鈴木達郎会長がご勇退されることに伴いまして、新たに会長に就かせていただきました専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科七期生の上野仁豪と申します。また、同時に役員も一新され、令和も始まり、時代とともに同窓会としても新たなスタートを切りました。新しい役員ともども試行錯誤しながら、また、先輩方からご指導いただきながら、今回の総会及び懇親会の開催に至ることができました。

私といたしましては、鈴木前会長が築かれてきた基礎を大切に、同窓生にとっても母校にとっても同窓会という存在が必要となるよう、新役員一同、心を一つにして同窓会を運営していく所存です。

私は現在、病院に勤務しております。入院患者や外来患者に対してリハビリテーションを行っております。その際に、個人での限界を感じ、医師や看護師、理学療法士だけでなく作業療法士や管理栄養士の方々との連携の重要性を感じております。そして、ここ九州栄養福祉大学は建学の精神である「勇氣」「親和」「愛」「知性」を携えたりハビリテーションに欠かせない人材の養成校として、また地方創世の中核として発展していくことを願っています。同窓会として微力ながら尽力していく所存です。

# 総会終了後は情報交換会を行い 旧友や恩師との話に華を咲かせていました

懇親会では、カフェテリアに入っている委託業者によるオードブルが振舞われ、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、ご歓談をしていただきました。今回は、本来学校内では提供されないビールやカクテルといったアルコール類も特別に提供させていただき、学校内での飲酒という非日常を先生方と同窓生の皆様に楽しんでいただけたのではないかと感じております。

今回は、複数名の食物栄養科の在校生も参加しており、そこで卒業生に仕事や勉強について色々と質問をしているのを見て、微笑ましく感じ、同窓会の校内開催ならではの姿だと感じました。

先生と同窓生、食物栄養科とリハビリテーション科、卒業生と在校生などお互い違う仕事や立場ということもあり、今だからこそ聞いてみたいことや違う職種からの視点など、こういう情報交換こそが同窓会の醍醐味であると感じました。



副会長 福田弘明さんの話に聞き入る在校生



室井学長のご挨拶



# 時は過ぎ…卒業生は今!!

ENTRY NUMBER  
**1**

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 9期生

## 和泉 翔太



在学中はフットサル部を創つてみたいとNowtheManに入ってみたり様々なことをやらせていただきました。勉強もそのうちのことだと思っていました(笑)

私は現在、出身地である広島県尾道市で管理栄養士として病院で働いています。栄養管理や食数管理、栄養指導を中心に日々業務に追われていますが、充実した日々を送っています。私は常に視野を広く持つことを心掛けており、いつもこんなときでも対応できるように考えています。

一年前の夏、大雨の影響で各地で土砂崩れや警報が出る中、尾道は断水の状態となりました。災害への意識はあまり持っていませんでしたが、勝手に体が動くような感覚で必死に対応しました。その結果、衛生面や食糧のトラブルが起こることなく切り抜けることができました。自分自身の対応力に驚きましたが、同時に力がついていることを実感することができました。この経験は私の自信となり、現在も仕事に生かされています。

近年、在宅での管理栄養士の重要性が高まっており、病院で働く栄養士も無視できない状態となっています。私も地域に貢献していきたいと考えています。しかし、まだまだ知識や経験が足りていないことも事実であり、自分自身の成長の為に、この春私は転職を決定しました。

私らしい管理栄養士を目指して、これからも精進していきます。

ENTRY NUMBER  
**2**

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 7期生

## 宮崎 明日香



卒業後の進路は？  
A. 市役所職員→大学助手→現在病院勤務しています。

仕事内容は？  
A. 患者様の栄養管理や栄養指導を行っています。

仕事のやりがいを教えてください。  
A. 医師に患者様の病態に合わせた栄養プランを提案し、栄養状態や排便状況が改善されたとき、患者様のリハビリに合わせて食事内容を検討し、筋力アップにつながった時。

休みの日の過ごし方は？  
A. 美味しいカフェやパン屋さん巡り、美術館や温泉でゆっくりしていることが多いです。

心に残る在学中のエピソードは？  
A. ゼミ活動です。子どもも料理教室や健康教室など、たくさん栄養指導する機会を頂き、みんなでレシピや媒体を作成、何度も練習し、緊張しながらやり遂げることができました。また、耶馬溪の合宿、夜遅くまでゼミ室で国家試験の勉強をしたこと、忘れられない思い出です。

大学でやり残したこと、チャレンジすればよかったものを教えてください。  
A. 海外旅行や一人旅、ボランティアなど、新しい経験をすること。学生生活で出会ったことができない人との出会いや失敗して学ぶこともたくさんあると思います。

ENTRY NUMBER  
**3**

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 3期生

## 縄田 佳志



勤務先は？  
A. 北九州市にある産業医科大学病院のリハビリテーション部に所属しています。

仕事で力を入れていることは？  
A. 当院は急性期総合病院であり、幅広い分野の疾患を抱えた患者さんに触れる機会があります。その中でもICUなどの集中治療領域におけるリハビリテーションに興味を持っており、その分野の発展の為に日々研鑽を積んでいます。ICUに入室された患者さんは日々病態が変化するため、他職種との情報共有が重要で、集中治療医や看護師と密にコミュニケーションをとっています。ICUでは思うように動けなかった患者さんが、一つ一つの動作を獲得していく姿を見ることがそのサポートをする中でとてもやりがいを感じています。

休みの日の過ごし方は？  
A. 社会人テニスチームに所属しており、練習がある日はテニスをしたり、その他には愛車に乗ってドライブや自転車や遠出したりなど体を動かすことがリフレッシュしています。

心に残る在学中のエピソードは？  
A. 正直濃厚な大学生活を過ごしたので、一番を決めるのは難しいですね…。夏場の通学でタンクトップ一枚を着て九段坂を駆け上った日々やフラスコで先生と生徒関係なく盛り上がった夜、国家試験合格に向けてグループ一丸となって勉強に取り組んだ毎日、それをもっと思い出します。

# 学園祭が開催されました

勇気

親和

愛

知性

## 小倉北区キャンパス

北区キャンパスでは、野外ステージでのダンスや演奏など、若さがほとばしる学生たちが所狭しと動き回っていたり、一般公開講座では薬膳研究部の学生が研究発表及び薬膳スイーツの試食会を行っており、静と動が織り交ざった学園祭となっていました。

食べ物の模擬店も様々出店しており、がつり系から流行りのスイーツ系まで色々と楽しむことができ、さすが食物栄養科だなと感じました。



## 小倉南区キャンパス

南区キャンパスでは、恒例の人気企画であるバザーやP・T・O・T企画などが行われていました。私自身、今回初めて参加させていただいたのですが、オリジナルのTシャツやコスプレなど一体感があり、学生の皆さんが全力で楽しんでいるのがとても印象的でした。車いす体験など日頃使う機会のない、リハビリテーションに関わる道具が体験できたりと来ていただいた方を楽しませる企画が多いと感じました。



## 編集後記

みなさん、こんにちは！今回、初めてこの会報誌の編集に携わらせていただきましたが、慣れないながらも同窓生の皆様に少しでも母校の今や、旧友の今をお伝えできていたなら幸いです。

今回の会場となった北区キャンパスは私が在籍していた頃からかなり変貌していて、なぜ私が在籍している間にこうならなかったのかと…。ただただ在校生がうらやましい限りです。今回、その変わったキャンパスを会報誌用に写真に収めようとも思いましたが、ここは是非ご自身の目でパワーアップした北区キャンパスを見に来て頂けたらと思います。

取材及び編集をしていく上で、役員の方々や先生方、また取材を快く引き受けていただいた皆様のご協力があったからこそ、ここまで会報誌を作り上げることができました。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

会報誌の作成は、今までとは違う視点で母校を見ることができ、私自身も良い経験となりました。今後も皆様に楽しく読んで頂けるような、より良い会報誌が作れるよう精進してまいります。また次回の会報誌でお会いしましょう…。最後までお読みいただきありがとうございます。